



## おつりが多い

年 組 ( )

「たしか、この人形にんぎょうだったな。」

シゲキは、たなの上に手をのぼした。今日は、お姉ちゃんのために、プレゼントを買いにやってきたのだ。お姉ちゃんがほしがっていた人形にんぎょうを買うつもりだ。

「お姉ちゃん、きっとよろこぶぞ。」

本当なら、人形にんぎょうにかぶせる帽子ぼうしも買ってあげたいところだ。

でも、それにはあと500円も足りない。買ってあげたい気き持ちはあるのだけれども、お金がないなら仕方がない。きっと、人形にんぎょうだけでも喜んでくれることだろう。

レジに持って行って、お金をしはらう。シゲキは、2000円を店員てんいんさんにわたした。

「1300円です。」

700円を返かえされた。

おかしい。だって、ねだんは1800円だ。おつりは、200円のはずなのに。おそらく、店員てんいんさんがねふだを見間ちがえたのだろう。

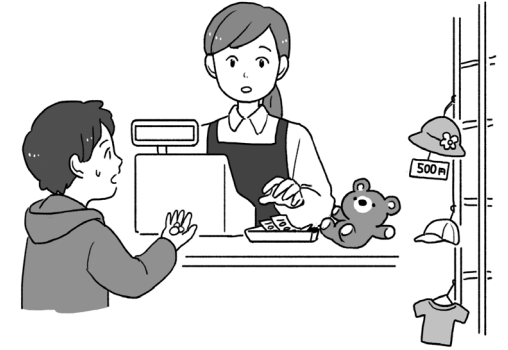
「返さなきゃ——。でも、ちょっと待まてよ。」

シゲキは、手を止めた。

これなら、人形にんぎょうの帽子ぼうしも買うことができる。

お姉ちゃんを、よりよろこばせることができるじゃないか。  
それに、おつりを間ちがえたのは、店員てんいんさんのせきにんだ。  
ぼくが悪いわけじゃない。でも——。

シゲキは、ギョッとおつりをにぎりしめた。



シゲキは、おつりで人形にんぎょうの帽子ぼうしを買うべきでしょうか。それとも、おつりを返すべきでしょうか。あなたの考えと理由りゆうを書きましょう。

.....

.....

話し合って考えたことを書きましょう。

.....

.....